

畜試50年のあゆみ



(「序」より)

香川県畜産試験場は、昭和 37 年に、香川県立種畜場を前身として、現在の木田郡三木町に設立され、今年(平成 24 年)、50 周年を迎えました。

本県の畜産業は、狭い県土でありながら、温暖な気候のもと、畜産農家のたゆみないご努力と優れた飼育技術によって、県の農業産出額の約3割を占める基幹部門として発展しています。

畜産試験場は、設立以来、県内唯一の畜産に関する試験研究調査機関として、家畜の改良普及や新技術の開発普及、飼料の検査など、本県畜産業の基盤強化に大きな役割を果たしてまいりました。

近年、畜産業を取り巻く状況は大きく変化しており、多大な被害をもたらした口蹄疫や鳥インフルエンザなど家畜伝染病の発生に加え、景気後退の影響による消費の低迷、生産コストの高騰など、厳しい状況が続いています。

県では、昨年(平成 23 年)、「県民が安心して暮らせる元気な農業・農村の実現」を基本目標とした「香川県農業・農村基本計画」を策定し、「危機への備えと対応」、「讃岐三畜のブランド化の推進」、「魅力ある畜産物の生産振興」を重点施策に掲げ、各種施策を積極的に展開し、本県の畜産振興に取り組んでいるところであります。

畜産試験場では、こうした取組みを推進していくため、行政部門や普及部門と連携を図りながら、畜産農家のニーズをよりの確に把握し、未利用資源を給与した畜産物の品質や安全性、生産性の向上のための育種改良や飼育技術の改善など、生産現場に還元できる試験研究に取り組んでいくこととしています。

創立 50 周年の節目に当たり、畜産試験場が時代の要請に応えながら、本県の畜産業の発展に寄与できますよう、関係の皆様方の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

(平成 24 年 11 月、香川県畜産試験場)

(7101141781)